

2024 年度第 5 回 (通算 15 回) 北海道レフェリーアカデミー 事業報告

報告者：高須賀哲平 (旭川地区)

丑屋幸大 (苫小牧地区)

【日時】2024 年 9 月 7 日 (土) 9 月 8 日 (日)

【場所】帯広大谷高校 帯広の森コミュニティーセンター 帯広の森球技場

【参加者】審判員：高須賀哲平 丑屋幸大 及川凌夢

インストラクター：古曾部統太郎氏 (RAM) 今川一輔氏 (RAI)

伊藤真也氏 (RAI) 岡田渉氏 (RAI)

オブザーバー：板矢智志氏 (1 級審判員・RAC 1 期生)

【研修テーマ】志高く

9 月 7 日 (土) 11:00 集合

11:10 フィジカルトレーニング 『ウォーミングアップ』担当：岡田氏

試合前にウォーミングアップを行うが、当日における試合に向けての体づくりや気持ちの作り方を岡田氏と一緒にアップをしながら学ぶことができた。今回の実技を活かして、筋肉に対するアプローチや試合に近づけた動きを含めながらウォーミングアップを行い、ケガをせず、レフェリングをやっていききたい。



11:45 シャドウレフェリー 前半 板矢氏+丑屋 後半 高須賀+及川

普段、TRM でレフェリーが 2 人いたとしてもシャドウイングをやる機会は全くなく、初めてやるアカデミー生もいました。シャドウイングをやることにより自分が考えていること以外への気づきや新たに学ぶことが多く、シャドウイングをやるメリットは大いにあると感じました。シーズン中に TRM をやる機会やその試合にレフェリーが 2 名いる状況など作り難いが、積極的にシーズン中にやる機会を作り、成長に繋げ、公式戦でいいパフォーマンスを発揮し、選手とともに良い試合を作っていきたいと感じた。

12:20 フィジカルトレーニング 『クールダウン』

試合が終わった後、しっかりとしたクールダウンを行っている審判員は少ないと感じており、クールダウンをできる環境下に置いていないとも言える。しかし、選手と同様以上に動いているのであれば確実にクールダウンをしなければ、怪我のリスクも上がってしまう。今回のアカデミーは次の日も試合があったが、クールダウンを行うことで疲労が少なく、ほとんどない状態で向かえられていたので、クールダウンの必要性を再確認することができたとともに試合の日も積極的に取り入れていきたい。

12:45 移動・昼食

14:20 上級審判員講義 『JFL 主審に求められているもの』 担当：板矢氏



JFL 主審 2024 年シーズンのテーマ「判定力・納得力のあるポジショニング・マネジメント」の3点について詳細に説明していただいた。判定力に関しては「著しく不正なプレー」に焦点を当て、判定に必要なピース掴みに行き、それを落とさないことでその事象の正しい理解と解釈ができ、規則を適用すると教えていただいた。ポジショニングでは特にペナルティエリア内の事象に対する細かなポジショニング修正が重要であり、最終的に何が見たいか、考えられる展開の予期予測から修正を行うと説明

していただいた。マネジメントについては、起きた事象に対するマネジメントに意識が行きがちだが、先取りのマネジメントの必要性を感じることができた。大きなことが起きる前の予防策の重要性を学んだ。

15:00 審判員プレゼンテーション 『JFA セレクションの概要』

担当：高須賀

現アカデミー生の高須賀さんに JFA セレクショントライアルの参加報告を行っていただいた。参加することができる人が数少ない中で、パワーポイントを用いて大変貴重な内容を知ることができた。同じアカデミーからこのような研修に参加し、話を聴けたことは誇らしながらも今後は自分たちも選ばれるよう切磋琢磨していきたい。



15:40 シャドウレフェリー振り返り 担当：伊藤氏



11:45 から行ったシャドウレフェリングの映像を用いて、振り返りを行った。2人の動きの差があったときに何を見て、どのように考え動いていたかなどお互いの考えを伝え合った。やはり、板矢氏が考えていることはアカデミー生が考えている何倍も多くのことを意識し考え動いていることを強く実感し、自分たちが考えることを増やさなければならぬと感じた。このように1級審判員の方と話す機会が多くはないため、実際に話すことができ、有意義な時間であった。

16:30 諸連絡・解散

9月8日(日) 8:30 集合

10:00 試合実践 2024 道東ブロックリーグ 最終節

クラブス vs 釧路市役所サッカー部 R: 高須賀 4th: 丑屋 担当 INS: 今川氏

《主審振り返り》

前日にシャドウレフェリングをしたことにより自分が見たいものを明確にすることができ、そのために動き、そしてどのように動くかを一試合通して考えながらできた。結果的に判定する距離が近く、説得力のあるポジショニングを取ることができた。

道東ブロックリーグ最終節ということもあり、試合に関わる人すべてが気持ちよく終わることができたと考える。

《INS コメント》

繰り返し反則を行っている選手への対応として、公平・公正を常に意識して判定を行い、両競技者に対しバランス良く対応する。ADV 適用時に声とシグナルの必要性を再確認すること。ドロップボールの落とし方など些細なことに対しても気づきやり方を考える。以上3点のことを意識しながら今後の試合実践に活かしてほしい。



12:30 試合実践

蹴鞠会 vs F C 網走 R: 及川 A1: 岡田氏 4th: 高須賀 担当 INS: 古曾部氏

《主審振り返り》

RACが帯広での開催ということもあり、ここで自分の成長した姿を見せたいと強いモチベーションで臨んだ。そして、前日のシャドウを活かして、前からの課題である争点との距離や走力、PA内の事象を見るために深い位置まで入り込んでいくことを意識しながら取り組んだ結果、判定なども自信をもってできたし、説得力や選手からの納得感もあったと感じている。しかし、要所要所で課題が残る部分(判定基準など)もあったため、次はそこに対して向き合いつつ、今回の試合を自信に繋げてさらに成長できるように努力していきたい。

《INS コメント》

大いに成長を感じられた素晴らしいパフォーマンスであった。前日のシャドウレフェリーを踏まえ、次の日に活かすことができたことは良かった。通常の試合であれば熱量がグンと上がる反則に対しても声が上がらなかったのは、この試合をしっかりとコントロールした及川さんの勝ちであると感じる瞬間もあった。成長を感じる試合でありながらも課題もある試合でした。しかし、今回の試合をベースとしてさらにチャレンジをしていくことを期待している。

15:00 試合実践

新得フットボールクラブ vs R シュペルブ釧路 R: 丑屋 4th: 及川 担当 INS: 伊藤氏

《主審振り返り》

PK マネジメントは的確であった。FK 時の再開場所について、クイックの有無、攻撃の起点になり得るか、得点に直結しそうか、ベンチからの距離などから丁寧に再開場所を指定する必要があるのかを考えておく必要があると感じた。後半 2 分 35 秒の再開では選手からの訴えからポイントを訂正した。C 項にも繋がるが、主審としての強さや威厳のある対応が必要であった。

《INS コメント》

2 分、33 分の質の悪いファウルにしっかりと注意を与えた場面は主審の気持ちが伝わった良いマネジメントであった。分析の通り、47 分の FK 再開ポイントを曖昧にした結果やり直し、83 分軽傷者にも関わらずプレーを止めたシーンは落ち着いて判断したい場面であった。

16:50 試合振り返り